

仁(ひと)くちコラムを担当する産婦人科の倉田 仁です。
私自身の略歴および英国で目指している
産婦人科医療について、ご紹介いたします。



略 歴

埼玉県出身、ロンドン在住。新潟大学医学部卒。87年に新潟大学医学部産科婦人科学教室入局。94年より同助手。96～97年に文部省在外研究員としてニューヨーク・ブラッド・センターへ留学。98年より新潟大学産婦人科医局長。03～09年にインペリアル・カレッジ・ロンドンにて遺伝子研究に携わる。04年より現職兼務。12年4月より1年間の予定でNHS病院において診療従事中。

豊富な経験を生かした医療

これまで、日英合わせて20年以上、産婦人科医療に携わって参りました。その間、妊娠、分娩、不妊症、婦人科良悪性疾患の治療など、一般診療の研鑽を重ねてきました。これまでに培った知識と、分娩2000件以上、手術1500件以上という経験をもとに、現在では英国での医療事情にも合わせた診療を行っています。例えば、日本で受診した場合、通常であれば当日に診察を受けることができますが、英国のNHSでは予約から受診まで3カ月かかる場合もあるということ、日本での出産に際しては医師が立ち会うのに対して英国では助産師が主体となること、日本では妊娠中に超音波検査を妊婦検診ごとに十数回にわたって行うのに対して、NHSでは2回程度しか行わないこと、などの違いがあります。このような日英の医療の差に戸惑いを覚える方に、違いを分かりやすく説明するのも肝要と考えています。

患者さんの良き専門アドバイザーになること

医師より病状説明を受けた際、その内容を理解できないと感じたことはありませんか。これは、担当医が一方的に専門的な医療用語を用いての説明に終始することが一因と考えられます。産婦人科での例を挙げると、「子宮内膜症」、「月経困難症」といった専門用語が使われる場合があります。平均診療時間が5分程度の日本の大病院では、こうした病名を患者さんに告げるだけで説明を終えてしまうことが少なくないのが実状です。しかし、これでは患者さんは自分の病気についてよく分からないまま病院を後にすることになりますし、たとえ説明を聞いている時は理解したと思っても、不明な点が多いことに後から気付くこともあります。このようなことを避けるために、図を使うなどしてできるだけ分かりやすい説明を心掛け、その内容を記載した書類やパンフレットをお渡しするようにしています。

患者さんの目線に立った診療

患者さんが躊躇することなく、何でもご質問いただけるような雰囲気作りを心掛けています。また、診断方法や治療法については、それぞれの特徴を説明して御本人のニーズに合わせて選択していただけるようにしています。同じ病気であっても、最適と思われる治療法が患者さんによって異なることがあります。そのような場合は、選択しうる治療法についての期待できる効果と起こりうる副作用や合併症を平易な言葉で分かりやすく説明するようにしています。薬物療法と手術のどちらを選ぶか、薬剤の中では何が好ましいかといった点に加えて、手術を日本で行うかどうか、海外旅行保険が適応されるかなど、選択肢は多岐にわたります。真に患者さん主体の医療を実践することは容易ではありませんが、少しでも理想に近づくことができればと思っています。

多忙な日本の大学病院に勤務していた頃は、患者さんの話にゆっくり耳を傾けられない場合が少なくありませんでしたが、現在は、一人一人にきめ細かく対応する時間を取るできるようになりました。NHSや現地プライベート病院を受診される方の付き添いサービスや産婦人科無料相談も行っております。少しでも在英邦人の方々のお役に立てればと思っています。